



# 川端鐵工株式会社

2002年フィリピン、2008年タイに現地法人を設立する。2016年12月ミャンマーに小水力発電装置を受注・生産する現地法人の登記を完了し、2017年4月には正式な現地法人を設立する

展開国・地域  
2002年 フィリピン  
2008年 タイ  
2016年 ミャンマー

企業情報  
所在地: 富山県黒部市 従業員数: 52名  
設立: 1980年6月 URL: <http://www.kanayago.co.jp/>

事業内容  
めっき装置、省力化装置、搬送装置、工業炉、小水力装置、  
機械設計、部品製造、機械組立、現場設置工事

## 調査事業が進むうちに現地法人設立の必要性を実感

弊社の取引先が次々と海外に進出する中で、仲間の会社や大手取引先に誘われ、2002年フィリピンに拠点を持ったのが最初の海外進出です。2008年にはタイにも現地法人を設立しました。この2カ国は取引相手が日系企業で、需要が見える中での進出でしたのでさほど心配事はありませんでした。一からの挑戦は2013年度JICA「小水力発電によるミャンマー農村のエネルギー自立支援事業調査」を受託したことから始まります。現地に入り基礎調査が進むうちに電力事情やビジネスとしての需要が見えてきて、現地法人設立の必要性を感じました。これまでの場合と違いミャンマーという未知の領域に本格的に進出するとなった時に手助けしてくれたのがジェットロです。2014年に海外展開のための専門家による支援事業に採択され、派遣された専門家の方と現地に向かい、小水力発電装置をミャンマーで展開している有力者が経営する会社とMOUを結びました。

## 電力に詳しい専門家の人脈で受注生産の足掛りができた

その後2015年、2016年にもジェットロに支援してもらいました。派遣された専門家はミャンマーの電力事情に大変詳しい方で、現地にもいろいろなパイプを持っていました。合弁パートナーの紹介を受け、何度か現地で話し合いを重ねて、2016年12月ヤンゴンに小水力発電装置を受注・生産する現地法人の登記完了、2017年4月には正式な現地法人の設立となりました。ミャンマーには2030年までの全土電化計画があります。ナショナルグリッドが行き届かない山間地は太陽光・小水力などで補完するというものです。新たに2019年度JICA「現地化マイクロ水力発電による地方電化ビジネス案件化調査」に採択され2019年7月から現地に入る予定です。

## 受け入れた留学生との交流で従業員の意識も向上

弊社が「ミャンマーで小水力発電」という事業に取り組むようになったきっかけの一つには、アウン・サン・スーチーさんが2013年に京都桂川で水力発電をご覧になり「ミャンマーの無電化の村に設置したい」とおっしゃったことにあります。2018年10月東京でお会いした際に、辺境開発庁(DRD)という政府機関で水力発電事業を進めるという話をしてくださり激励のお言葉も頂戴しました。2018年「富山県アセアン留学生等受入事業」を活用してフィリピンから受け入れた留学生が、来年には富山大学の大学院を卒業して弊社に入社してくれることになっています。2人目となるミャンマーからの留学生受け入れも進んでいます。国内はもちろん現地法人の人材育成は中小企業にとって大きな課題です。将来的には留学生たちが帰国して現地法人の運営を行う形になればいいと思っています。こういう留学生との交流は従業員にとっても良い刺激となり、モチベーションの維持向上につながっているようです。



1 2018年10月アウン・サン・スーチー・ミャンマー国家最高顧問が来日した際に面談した川端社長  
2 トロ専門家を紹介された合弁パートナーとの覚書締結  
3 ミャンマーに設立した「KAWABATA SUMINO LTD.」の本社。マイクロ発電装置の後のメンテナンスにも取り組む予定



「一からの挑戦を手助けしてくれたのは、ジェットロとJICAの専門家」

代表取締役社長  
川端 康夫 氏

## 専門家からのポイント

川端鐵工はミャンマーで電気の行きわたっていない地域に電気を届けたいという理念にて小水力発電装置の普及を目指しており、2015年から支援を開始しました。同国で製造・販売を目指した「たらい型小水力発電機」を、日本の製造価格の10分の1以下のコストで製作することを模索し、製造価格の低減に目途がつかしましたが、設置地への輸送が難しく手段を模索中です。現在紹介した現地パートナーと2017年度に合弁会社を設立しさまざまなアプローチを試みており、ミャンマーの方々に電気をお届けできる日が近いと確信しています。